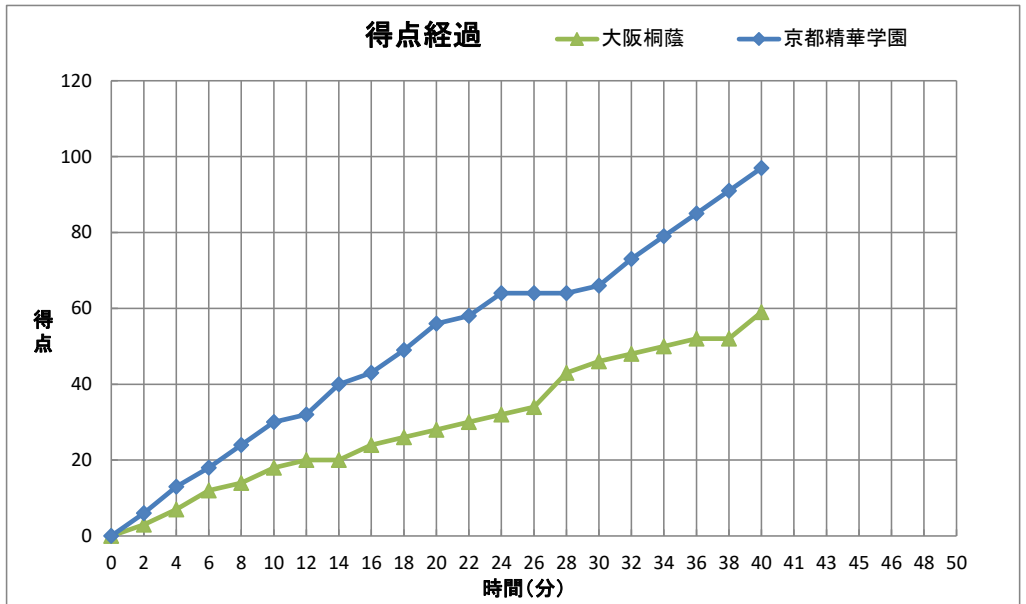




令和4年度  
第33回近畿高等学校バスケットボール新人大会

個人トータル表

女子		2月19日		9:30 開始															
準決勝		滋賀ダイハツアリーナ		C															
大阪桐蔭 59		<table border="1"> <tr><td>18</td><td>1st</td><td>30</td></tr> <tr><td>10</td><td>2nd</td><td>26</td></tr> <tr><td>18</td><td>3rd</td><td>10</td></tr> <tr><td>13</td><td>4th</td><td>31</td></tr> </table>		18	1st	30	10	2nd	26	18	3rd	10	13	4th	31	97		◎ 京都精華学園	
18	1st	30																	
10	2nd	26																	
18	3rd	10																	
13	4th	31																	
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則						
4	北條 瑚奈	-	-	-	-	-	* 4	堀内 桜花	0	0	0	0	0						
* 5	片山 朋子	23	1	10	0	3	* 5	八木 悠香	12	0	6	0	1						
* 6	小池 織寧	6	0	3	0	4	* 6	川地 汐夏	0	0	0	0	0						
7	西山 奈々心	6	0	3	0	4	7	山西 凜愛	1	0	0	1	0						
* 8	繁田 佳伽	0	0	0	0	0	8	塚口 珠妃	0	0	0	0	0						
* 9	唐原 璃子	16	0	7	2	5	9	大田 紅葉	0	0	0	0	1						
10	夏野 ひまり	0	0	0	0	1	10	高井 星	2	0	1	0	0						
* 11	井口 朝絵	8	2	1	0	0	11	雁瀬 梓	-	-	-	-	-						
12	瑠璃垣 舞	-	-	-	-	-	12	土屋 あかり	-	-	-	-	-						
13	平田 千遥	-	-	-	-	-	13	松居 かなで	0	0	0	0	0						
14	木田 真由香	-	-	-	-	-	14	林 咲良	7	0	3	1	0						
15	山岡 杏花莉	-	-	-	-	-	* 15	フィッロ シェンカ フリコビキ エレ	37	0	18	1	1						
16	丸山 心華	-	-	-	-	-	16	橋本 芽依	7	1	2	0	2						
17	荻田 真光	-	-	-	-	-	* 17	桃井 優	8	2	1	0	2						
18	濱田 優莉	-	-	-	-	-	18	ユキフ ボラン アシヤント	23	0	11	1	1						
コーチ	森田 久鶴					0	コーチ	山本 綱義					0						
Aコーチ	永井 雅彦						Aコーチ	中川 瀬名											
合計		59	3	24	2	17	合計		97	3	42	4	8						
主審: 大野 哲広																			
副審: 田中 優志																			
副審: 小松 綾実																			



CTO	1・2P		3・4P			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	6:48	15:26	24:47	32:02	37:43	:	:	:	:
TeamB	:	:	:	:	:	:	:	:	:

〔戦評〕

近畿高等学校バスケットボール新人大会準決勝、大阪桐蔭高校対京都精華学園高校の一戦。

第1Q、大阪桐蔭#5、6、8、9、11、京都精華#4、5、6、15、17のスターティングメンバーで試合開始。京都精華ハーフコートマンツーマン、大阪桐蔭オールコートプレスでスタート。京都精華高さを活かし#5、15の連続得点で出だしの流れを掴む。対する大阪桐蔭、スクリーンを上手く活かし、ずれを作ってシュートをするも京都精華の高さに苦しむ。残り3分10点差をつけられたところで大阪桐蔭たまたまタイムアウト。大阪桐蔭激しいディフェンスで流れを掴もうとするが、落ち着いて対処する京都精華が得点を重ねる。大阪桐蔭18-30京都精華で第1Q終了。

第2Q、大阪桐蔭#5、6、7、9、11、京都精華は#4、5、14、15、17でスタート。大阪桐蔭、#5を中心にオフェンスを組み立てるも、京都精華の高さと上手さの前に、じわりじわりと点差が開き始める。20点差が開き、残り4分で大阪桐蔭タイムアウト。大阪桐蔭#5が攻守にわたり粘りを見せるも大阪桐蔭28-56京都精華で第2Q終了。

第3Q、大阪桐蔭#5、6、7、9、11、京都精華#4、5、6、15、17の両チームスターティングメンバーで試合開始。お互いディフェンスを頑張り、点数の動きの少ない後半の出だしである。大阪桐蔭の残り5分のタイムアウト明け、京都精華がスターティングメンバーから変えゾーンディフェンスにする。対する大阪桐蔭もゾーンプレスから相手のミス誘い点差を縮める。京都精華残り2分でたまたまスターティングメンバーに戻すも流れは大阪桐蔭。大阪桐蔭46-66京都精華で第3Q終了。

第4Q大阪桐蔭#5、6、7、9、11、京都精華#4、5、15、16、17で試合開始。京都精華#5、15を中心に得点を重ね、再び点差をつけ始める。開始2分経過したところで大阪桐蔭タイムアウト。残り5分、京都精華30点差つけたところでオールメンバーチェンジ。疲れの見える大阪桐蔭はファウルが混み始め苦しい展開になり、点差が開いていく。大阪桐蔭#5のプザービーターでゲームが終わるも、大阪桐蔭59-97京都精華で試合終了。

大阪桐蔭の最後まで諦めない姿は賞賛に値する。しかし、昨年冬の覇者京都精華の強さが光るゲームであった。

戦評: 前川 慎輔

記録:

大津商業高校 幸福関西高校